

ナプサさん大学院修了！ 奨学生モナリサ助産師国家試験合格！

— さらに進化、充実が期待される PIHS による「母と子の健康を守る」活動 —



喜びのナプサさん
修士課程修了証を手に

2018年12月の開院から満4年を迎えたパササンバオ助産所。昨年私たちが支援した顕微鏡や超音波診断機器などハード面の整備に加えて、ナプサさんはオーストラリア政府支援で学んでいたダバオ医大大学院での「母と新生児、子どもの健康と栄養」をテーマの修士課程を修了しました。

多忙な助産所運営の傍ら続けた学業でしたが、今後はコミュニティベースの啓蒙、研修の活動、及び助産所での日々の出産介助、産後指導でより成果を上げるうえで、これまでの長年の実践経験を理論面でも支えるものと期待しています。

一方、実習を兼ねて助産所を手伝いながら学業を続けたモナリサがついに助産師国家試験に合格したという朗報が届きました。認可助産所に必要な人材であるプロバイダー資格も同時に取得。今後、ナプサさんが研修や支援が必要な辺境を含むコミュニティでの活動に注力するためにも、モナリサが資格を持った人材として助産所の現場を守る体制ができたことは大変心強く思います。



ナプサさん(左)、
モナリサ(右)



上：400人以上の洪水被害者へ食料と古着などの物資を提供。
下：救護物資を運搬する車両

マギンダナオ州の水害被災地救援活動

— HANDS も救護活動費をサポートしました —

「マギンダナオ州を中心に大きな被害が出た！被災者救援に向かいたい」というメールが届き、医療チームとしてのPIHSの救援活動を支えるため、私たちが急遽支援金を送金しました。パキスタン等で甚大な被害が出たモンスーンによるものようです。

マギンダナオはPIHSの支援コミュニティがある地域で、私たちがパリンバンなど訪ねたことがあります。まだハッサンがPIHSの運転手としてナプサさんの医療活動をサポートしていた頃でした。幸い被災地からの追加支援要請はなく、各方面からの支援で最悪の状況からは脱したようで安心しました。

患者支援目的のヤギ飼育

— 成果報告は今しばらくお預け —

そろそろ繁殖による収益で、患者支援資金がたまった頃ではと、TBA/Tud Bolul Association のボニファシオに確認したところ未だに悪戦苦闘の状況報告が届きました。コロナダルの市の獣医に診てもらい、抗生物質をヤギに注射しましたが、ヤギの病気を抑えることはできず、この数か月で12頭も減ってしまいました。獣医からは「この地域には宿主病や細菌が存在するため、小屋の外の牧草地にヤギをさらさず、また外の草を食べさせないようにし、干し草に市販の飼料を加えて、小屋の中で給餌する」等、健康なヤギを飼育するためのアドバイスをもらったとのこと。患者支援のための資金にするまでにはまだ先が長そうですが、獣医のアドバイスを実践しようひと踏ん張りしてもらいたいと思います。



りはびり、獣
そ見り、医
うら草、の
れられ、助
なく食、言
くむ、場
姿の、の
なよ



ビラーンの村のアグロフォレストリープロジェクト

— 前号の追加写真が届きました！ —

前111号で報告のビラーンの村クロッドのアグロフォレストリー・モニタープロジェクト(2018年度、イオン環境財団の助成金で実施)についてボニファシオから追加の写真が送られてきました。



↑ 左からランブータン、ナラ、ナブル。成長は順調です。